

三寶寺に寄せられた 皆様からの 声

開教者会報恩講に参加して

伊藤孝男様寄稿

3月9日(日)、東本願寺真宗会館にて首都圏大谷派開教者会の報恩講に、住職様、坊守様、名桐様、同娘様と私の5人で参加致しました。

勤行に続いて、田代俊孝氏の法話「いのちとの出会い」 わたしのいのち、あなたのいのち と題して約1時間30分話されました。

現代では「いのち」が商品化され、ビジネス化されている。遺伝子の組み替え等が研究され、DNAから「あなたは何歳ぐらいで重い病気になる」とわかってしまう。あなたの家は 病の家系だから何歳になつたら死ぬんだと言われたら如何しますか。出生前診断で優れたものだけを残し他のものは排除する「優生主義」、役に立たないという「ものさし」だけで判断する。命は長ければ長いほどいい、という

「ものさし」だけで大事な事を忘れているのではないが、三帰依文の「人身受け難し、今すでに受く」に早く気がついてほしいものです。ものの力によ

って延命する事でなく、真宗に出遇ったという事で「ものさし」から開放された世界に行きたいものです。

「南無阿弥陀仏」無限なるものに無する、「頭が下がる」という事です。「頭を下げる」のではないのです。幾多の「思いを超えたもの」に出遇った時、自ら頭が下がる、これが「南無」なのです。阿弥陀仏に南無する、自己を超えた世界がある事を知らせてくれる如来の声、お念仏によつてその如来の呼びかけが聞こえるようになります。

以上が私なりに理解した内容です。ユーモアを交えて話され、この先を聞きたい気持ちになりました。

その後、「フランシーヌの場合は」の新谷のり子さんのミニコンサート。淡谷のり子さんと特攻隊の話、阪神大震災やパレスチナ、マザーテレサなど、ご自身の体験談を織り交ぜながら、平和の大切さ、命の尊さを力強く訴えられました。引用された「どんな宗教であれ、キリスト教徒はよきキリスト教徒に、仏教徒はよき仏教徒に、イスラ



ム教徒はよきイスラム教徒になってください。それが平和への道です」という言葉が強く印象に残りました。

湘南組門徒会に同席して

名桐一男様寄稿

3月16日(日)相模原、一進寺様の門徒会館を会場に行われた「湘南組門徒会」に伊藤様と共に同席させて頂きました。ちょうど三年に一度の役員改選の場で、それぞれの寺院から集まられた総代クラスのお歴々が並ぶ中で会

願生新聞の感想

「深く感動致しました。確かに往生に向けての仏性というのはそれはもう神秘的ですよ。私もそう思います。また、住職さんの韓国に向けてのご活躍に、喜び大きいものを感じました。

願生新聞の感想、質問などがなされること、掲載されることが望まれます」

千葉県 岩淵様

「願生新聞を読ませていただきました。回を重ねる度に内容が充実され、感激しています」 三寶寺隣家 荻原澄江様
「願生新聞はいつも私が落ち込んでいるときに届けられるのでとてもありがたいです！」

四月に行われます「花まつり」では、姪っ子にお釈迦様に甘茶をかけさせてあげたいと思っています。

また、お念珠づくりも、是非作ってみたいと言っていますので参加させてください。楽しみにしています。母も

議を拝聴した後「真宗門徒の心得」の講習を受け、お齋を頂いて帰りました。お寺の先に組があり、御本山へと繋がっている。お寺へ通う門徒としても「正式寺院」の門徒として成長していくのだ、と自覚した日でした。



一緒にです。よろしく願います」

神奈川県 F・利子様

「浄土論ができたので思わずほほえんでしまいました。住職さんの韓国のお話はよくわかりました。私は落語が好きでよく聞きに行きます」

伊勢原市 中尾陽子様

サンスクリット学習会

「実は稲津先生の大信海(合本)を朝晩読んでいます。こんな感動する本は今までなかった。(俺たち阿羅漢位にいけたかなあ〜)」

聖求経 仏陀の声 平塚市 深島様

悪魔は悪魔から見えている人をつかまえにくる。仏法を勉強している人には、悪魔にとつてめくらになって見えなくなってしまう。だから捕らえることができないそうです。

毎月第4金曜日のサンスクリット学習会は4月から大般涅槃経になります。皆様もどうぞ、ご参加ください。

心に如来を思うとき